

お正月に込める願いと、子どもへの『伝わり方』

新年あけましておめでとうございます。

年末年始の休みを終え、園内には子どもたちの元気な声が戻ってきました。

「おもち食べたよ!」「お年玉、めっちゃもらった」「神社に行った」などと、目を輝かせてお正月の思い出を話してくれる姿に、私たち職員も新しい一年の始まりを実感し、身の引き締まる思いがしました。

さて、皆様のご家庭ではどのようにお正月を過ごされましたか？

私は家でゆっくりおせち料理を食べたり、息子とコマ回しや、かるた取りなど伝承遊びをしたり、初詣に行ったりと、お正月を満喫して過ごしました。

一緒に過ごす中で息子に「なんでお正月におせちを食べると思う?」と聞いてみたところ

「お正月だから」という答えが返ってきました。

近年では簡略化されることも多くなりましたが、お正月行事の一つひとつには、古くから大切な意味が込められているそうです。

例えば、皆さんご存知かと思いますが【お節料理】には…

黒豆＝「まめに（元気に）働けますように」

海老＝「腰が曲がるまで長生きできますように」

数の子＝「子孫繁栄」 伊達巻＝「卵が子宝」という意味

紅白かまぼこ＝「紅白でおめでたい」「白⇒清浄（清らかでけがれがない）紅⇒魔除け」

昆布巻＝「よろこぶ」 栗きんとん＝黄金の塊と見立て「商売繁盛」

重箱に詰めるのは「福（めでたさ）を重ねる」という意味です。

また、門松は神様を迷わずお迎えするための目印であり、お年玉はもともと「年神様の魂」を分けていただくものだったと言われています。

このように家族の幸せや無病息災を願う祈りが詰まっているんですね。

以前のコラムで『伝える』と『伝わる』の違いについて書きました。

「伝える」は伝えた側の一方的な主観、相手が理解して初めて「伝わる」となります。

相手の心に届けるのであれば、「伝わる」を意識することがポイントです。

伝統行事も同様で、単に「お正月だから飾るんだよ」などと知識を伝えるだけでは、子どもの心になかなか伝わりません。

子どもに「伝わる」ようにするには、その意味を子ども自身の生活と関連付けることがポイントで、「このタコを食べると、みんなが今年一年間幸せになれるんだよ」

「たけのこは、子どもがすくすく育ちますようにという願いが込められているんだよ」

といったように、「なぜそれをするのか」という明確な理由を添えてみるといいですね。

自分に関連することで、子どもにとって伝統行事が自分事へと変わっていきます。

ぜひご家庭でも、行事や教えたことを「伝わる」会話で楽しんでみてくださいね。

今年一年、子どもたちが元気いっぱいにご過ごせるよう、職員一同精一杯努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（中野）